

# 避難所での生活

## 《避難者による共同運営》

避難所は、不特定多数の被災者が共に生活をする場です。ルールやマナーを守り、避難者同士で協力し、支えあうことが重要です。特に避難所生活が長期化することが想定される場合は、柔軟な対応や意見・要望に対応できるよう、避難者の自主運営組織が主体となり、避難所の運営を行いましょよう。

### 女性の視点

運営組織は男性中心になりがちです。女性の参加を求め、女性をはじめとする様々な視点を生かした避難所運営を心がけましょよう。

- おむつ交換や授乳スペース等の確保
- 子どもコーナーの設置
- 生理用品等、女性特有の物資の配布は、女性が行う など

### 感染症への対策

避難所には多くの人が集まる可能性があることから、感染症拡大防止に努めましょよう。

- 手洗い・うがいや咳エチケットなどの徹底
- マスク・消毒液・体温計などの用意
- 体調不良の方はスタッフに申し出ましょよう

### ペットの同行避難

自宅が危険な場合などはペットと一緒に避難ましょよう。ただし避難者と同じ場所でペットと共同生活ができるとは限りません。

自宅が安全で定期的にペットの世話ができるのであれば、避難所につれていけないことも選択肢の一つです。また、ペットの預け先(親戚・知人等)について、事前に探しておくともよいでしょう。

- ※ ペットフードやケージ等は、飼い主が責任をもって用意ましょよう。
- ※ 避難所では、ルールに従い、飼い主が責任をもって世話をましょよう。

### 配慮が必要な方への対応

高齢者や乳幼児、病気や障害のある方、妊産婦、日本語が理解できない外国人などは、避難所生活を送るうえで、支援が必要になる場合があります。皆さんで協力して、配慮が必要な方を支援ましょよう。本書 P25 を参照

#### ●福祉避難所

避難所に、障害者・要介護者などの専門的な支援が必要な方が避難された際に、二次的に開設される避難所です。必要に応じて、避難所に避難されている方の中で対象となる方を市職員がご案内ましょよう。

### 避難所での防犯対策

避難所は、完璧な防犯環境ではありません。自分の身体・財産は自分で守ることを心がけましょよう。

- 死角になる場所には、できるだけ近づかない
- 子どもだけの環境は作らない
- 貴重品は常に持ち歩く
- 他人の前では、お金の話はしない など

### 避難時のポイント

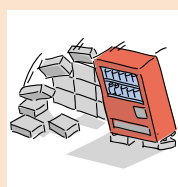
#### 避難は徒歩で

緊急車両の通行の妨げ、また、道路の損傷等で二次災害の危険もあるため、避難は徒歩で行いましょよう。



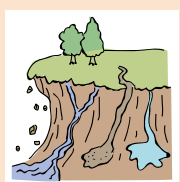
#### 狭い道やブロック塀に注意

ブロック塀や自動販売機が倒れる危険があります。また、看板や割れたガラスの落下に注意ましょよう。



#### 山崩れ、がけ崩れに注意

居住地の自然環境を把握して、二次災害防止を心がけましょよう。



#### 隣近所の安否確認

隣近所などで声を掛け合い、一人で避難できない方の避難誘導や補助を行いながら避難ましょよう。

